

【写真】12月8日にいわみざわ子育て総合支援センターで「パパといっしょ！」が開催されました。
たくさんのおともたちがお父さんと一緒に楽しく遊んでいました。

令和元年（2019年）12月17日発行
編集・発行 岩見沢市教育委員会
〒068-0024 岩見沢市4条西3丁目1番地
であえーる岩見沢4階

第 **46** 号

教育広報

いわみざわ市の教育

— 特集 —

岩見沢市教育振興表彰 受章者の紹介

- ・ 第2回氷室冴子青春文学賞 授賞式 & 記念トークショー
- ・ 東小学校の改修工事が完了しました
- ・ 歩くスキー教室
- ・ みんな知ってる？岩見沢市指定文化財③
- ・ 教育長室から



岩見沢市教育委員会 Facebook

市内の教育に関する行事の情報、市教委
ホームページの更新情報などを発信してい
ますので、ぜひ「いいね！」してください。
<http://www.facebook.com/edu.iwamizawa>



岩見沢市教育振興表彰

11月11日（月）午前11時より、ホテルサンプラザにて岩見沢市教育振興表彰式が執り行われました。

岩見沢市教育振興表彰とは？

岩見沢市の教育振興のため、特に功績のあった市民または市民であった方に対して、その功労を表彰するものです。

個人が成したことだけではなく、教育に携わる団体に所属し、その団体の育成・発展に貢献されたことなども表彰の対象となります。

教育関係各種団体、学校等が候補者を推薦し、選考を経て決定します。

今年度は、以下の方々が受章されました。

教育振興表彰受章者

学校教育功労



竹内 友康 様

学校歯科医として、生徒の口腔の健康増進に尽力されるとともに、岩見沢市歯科医師会役員として地域歯科医療の発展に寄与されました。



文化功労



佐藤 宣子 様

岩見沢文化連盟理事として、連盟の発展に尽力されるとともに、俳句の普及発展に貢献されるなど伝統文化の浸透に寄与されました。

文化功労



相澤 清 様

交響詩岩見沢の会会長として、「交響詩岩見沢」の普及・発展に尽力され、当市の文化振興に寄与されました。

体育功労



高柳 利雄 様

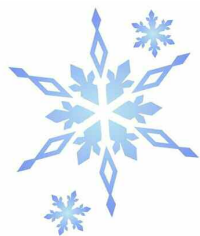
栗沢町体育協会役員として、スポーツ振興と組織の運営や発展に尽力され、地域スポーツの振興に寄与されました。

体育功労



佐藤 進 様

岩見沢バレーボール協会役員として、バレーボール振興と組織の運営や発展に尽力され、地域スポーツの振興に寄与されました。



第二回 氷室冴子青春文学賞 記念トークショー & 授賞式

が開催されました



12月1日(日)、ホテルサンプラザにおいて、「氷室冴子青春文学賞授賞式」と併せ、「記念トークショー」を開催しました。

ゲストに、文学賞審査員である小説家・朝倉かすみさんを迎え、氷室さんの作品との出会いや、子どもの頃に読んでいた本などについて、お話ししていただきました。

とくに、氷室さんの『いもうと物語』については、「女の子の生き生きとした表現が、すごくいい。他にない作品。」と絶賛。

質問コーナーでは、高校生から「おすすめの古い本」を問いかけられ、「好きな作家が触れたり薦めたりしているものがあれば、それを読んだ方がいい。図書館に、その本に似た昔の本について尋ねるなどして、“あなたの本”の星座ができていく。」と述べたうえで、「私は、カポータの『クリスマスの思い出』。時節柄、大変よろしい。」と笑顔で答えました。

限られた時間ではありましたが、素敵なお話を聞くことができた、素晴らしいトークショーとなりました。

授賞式では、審査員の一人、小説家の柚木麻子さんより、受賞作の講評をいただきました。

全672作品の中から大賞に選ばれたのは、佐原ひかりさんの『きみのゆくえに愛を手を』。準大賞は、坂水さんの『あるはげた日に』。特別賞は、鯨井一さんの『これカノン』です。

柚木さんは、大賞受賞作について「佐原さんの世界を見せていただいた。この世界を広げ、名前の付けられない関係や感情をどんどん掘り下げていってほしい。」と述べていました。



【審査員】

左から久美沙織さん、朝倉かすみさん、柚木麻子さん

* 第一回受賞作が本になりました *

第一回氷室冴子青春文学賞の大賞受賞作、櫻井とりおさんの『虹いろ図書館のへびおとこ』（河出書房新社 出版）が本になりました！

いじめがきっかけで学校に通えなくなった小学六年生のほのか。居場所を探してたどりついた古い図書館で出会ったのは――。図書館を舞台にしたこの一冊。ぜひ一度、読んでみてください。



* 氷室冴子青春文学賞 *

岩見沢市出身の作家、故氷室冴子氏の功績を顕彰し次世代の新しい才能を発掘するため、地元岩見沢市の有志が中心となって設立。今年、第二回目の授賞式を迎えました。

【お問合せ先】

岩見沢市立図書館

所在地 岩見沢市春日町2丁目18番1号

電話 0126-22-4236

改修した東小学校を紹介します

東小学校は昭和 50 年に現校舎に移転してから 44 年に
わたってたくさんの児童を見守り続けてきました。
10 月に校舎の改修が完了しましたので、ご紹介します。



落雪対策、断熱性能の向上



玄関の機能性向上



内装・設備の刷新





ウィンタースポーツを 気軽に楽しみませんか？ 歩くスキー



寒い冬を迎え、スキーやスノーボードなどウィンタースポーツシーズン到来ですが「寒い中で運動するなんて」「わざわざスキー場まで出かけるのはおっくう」などの理由で家にこもり、運動不足になりがちではないかと思います。そんな時、気軽に始められる「歩くスキー」はいかがでしょうか。

「歩くスキー」は膝や腰への負担が少ない全身運動のスポーツで、子どもから高齢者の方まで幅広い年齢の方が参加できるスポーツです。岩見沢市では、冬の間、東山公園陸上競技場と岩見沢市野球場にコースを開設しています。

道具がなくても、無料貸出を行っていますので、どなたでも気軽に始めることができます。



岩見沢市教育委員会では、シーズンに3回、歩くスキーのイベントを計画しています。今年度は1月に「歩くスキー教室」、2月に「歩くスキー体験 in ドカ雪まつり」、3月に「歩くスキーの集い」を行う予定です。

いずれのイベントも、岩見沢市スポーツ推進委員が丁寧に指導しますので、初心者でも安心してご参加いただけます。小学生のお子さん向けにも貸しスキーがありますので、ご家族連れなど多くの皆様のご利用をお待ちしております。



歩くスキー教室

日 時：令和2年1月11日（土）9：30～11：30（予定）
場 所：東山公園陸上競技場
持ち物：歩くスキー用具一式、飲み物、タオルなど
申込み：当日9：30から会場で受付

参加費無料！

貸スキーが必要な場合は、事前に申込みが必要です（無料）



歩くスキー体験 in ドカ雪まつり

日 時：令和2年2月 10：00～15：00（予定）
場 所：駅東市民広場公園 ドカ雪まつり会場（予定）
持ち物：飲み物、タオルなど
申込み：当日受付

参加費無料！

貸スキーを用意しています（無料）



歩くスキーの集い

日 時：令和2年3月7日（土）9：30～11：30（予定）
場 所：いわみざわ公園周辺
持ち物：歩くスキー用具一式、飲み物、タオルなど
申込み：当日9：30から会場で受付

参加費無料！

貸スキーが必要な場合は、事前に申込みが必要です（無料）

【お問合せ先】

教育委員会 生涯学習・文化・スポーツ振興課
文化・スポーツ振興係
電話 0126-35-5129

みんな知ってる？

岩見沢市指定文化財シリーズ③ ～水との闘い「一の沢水源池取水塔」～

岩見沢市教育委員会では、文化遺産の保護を主な目的として、昭和 42 年に文化財保護委員会を設置して、様々な文化遺産の調査を行っています。現在、7 つの文化遺産を指定文化財に認定しています。どの文化財も歴史的に貴重で意義のあるものばかりです。

第 3 回目の今回は、昭和 53 年に文化財に指定された一の沢水源池取水塔をご紹介します。

～良質な水を求めて～

かつて岩見沢は、飲み水に恵まれないまちでした。地中深くに堆積する泥炭がその原因で、人々は井戸を掘っても鉄分が多い水しか出ず、川から水を汲む人もいました。そこで明治 19 年、良質な水を求めて、市来知川を水源とする上水道工事を北海道で初めて試みましたが、結局失敗に終わりました。それから 22 年後の明治 41 年、当時の岩見沢町予算の約 5 年分に相当する金額を投じて、三笠の一の沢に貯水池と取水塔を持つ水道施設を道内で初めて建設しました。一の沢水源池の整備によって飲用水の供給が図られ、岩見沢は大きな歓喜に包まれました。その後、63 年にわたり運用されましたが、桂沢ダム completion により昭和 46 年に休止し、現在は雑用水として一部利用されています。

一の沢水源池取水塔は、岩見沢の水との闘いのシンボルとして、昭和 53 年に市指定文化財、昭和 60 年には近代水道史上の貴重な施設として、水源池が近代水道百選に選出されました。



一の沢水源池取水塔（三笠市萱野東）

お問合せ先
教育委員会生涯学習・文化・スポーツ振興課
文化・スポーツ振興係 電話 0126-35-5129



岩見沢市が取り組む 『心の教育』

教育長室から

教育長 三角 光二

教育は本来、人を幸せにする営みです。しかし現実には、学校でいじめの問題が起き、それを苦にして自死する子どもたちが全国で相次いでいます。また、いじめは大人の社会にも存在することが明らかとなり、その根深さを感じるとともに、子どもたちの大人になる夢を壊してしまうことが心配です。

岩見沢市では、全ての学校で『ピア・サポート』に取り組んでいます。これは、親和的な仲間づくりを実践的に取り入れているもので、「傾聴・受容・共感」を基本に互いに相手を尊重し、よりよい人間関係を築くためのプログラムです。さらに、学級集団の中で一人ひとりの状況を客観的に把握するため、『ハイパー QU』を活用した調査を実施しています。『ピア・サポート』の実践と

『ハイパー QU』の分析結果を、一人ひとりの子どもを大切に、どの子も主人公になる学級づくりをすすめるための先生方の手立てとしています。

その一環として各学校では、10 月と 11 月を『心の教育』推進月間として、生命・人権・思いやり・規範意識など、子どもたちが自らを振り返って考え、話し合いを深めながら、道徳教育を実践しています。そうした推進月間の中核となるのが、市内の小中高校の代表が参加して毎年開催される、「岩見沢市仲間づくり『子ども会議』」です。この会議は、互いの学校の取組を交流しながら話し合い、いじめのない、いじめを許さない仲間づくりをすすめていく動機づけとしています。

岩見沢の教育では、「授業づくり」「ふるさと教育」「心の教育」を通して、人間教育の視点に立った人づくりを重視し、誰もが肯定感や有用感を持ち、どの子にとっても居場所のある学校づくりをすすめたいと考えています。